展望

学会と企業

長田 功

私が縁あり電気化学会に入会（当時は電気化学協会）した今から約20年前から現時点までの状況を考えてみますと、一時オイルショックなどがありましたが全体的に高度成長を維持しており、企業に於いての研究開発活動にも余裕があり、将来の夢を追う研究活動も多くの企業に於いて許され研究開発予算が付いたのを覚えております。又、企業の利益につながる一部のテーマに関しては、企業は人、物、金を大量に投入したため、大学に比較して研究開発スピード、内容、共に優ることもしばしば見受けられました。

学会活動に於いても、多くの企業の研究者、技術者は参加を希望すれば、自由に許可されておりました。ところが、最近の日本経済の低迷により、企業各社の経営基盤も低落を招き、リストラをはじめとした合理化の波が企業にも押し寄せて来ました。

これに伴い、多くの企業では基礎研究の分野への人員を割く余裕が無くなったのも事実であります。そのため中央研究所の人員もリストラの対象になっている企業さえあります。

この様な状況下で、今後、大学と企業とが協力し合い研究の一部を分担し合って有効に両者の頭脳を活用する事が社会全体にとって益々重要になって来ると考えております。

今回、電気化学会の本部のお膝元であります関東支部の世話役をする事になりましたが、上記した点に配慮して会員同士の親睦を図り、情報交換に勤め学会と企業との関係をより密にしていきたいと考えておりますので、皆様の御協力をお願いするしだいです。

さて、電気化学の歴史を考えてみますと、食塩、アルミ電解工業に対する技術的対応に始まり、各種電気メッキの分野への技術的対応、電池産業への技術的対応、半導体分野への技術的対応、バイオ関連産業への技術的対応、各種電子部品産業への技術的対応、などさまざまな役割を果たしてまいりました。

一時期、当学会が経済的危機に陥った時もありましたが、諸先輩のご努力により克服し現在に至っています。

最近世界的に見ても電気化学会が他をリードして活躍している分野が多くある事は嬉しいかぎりです。

特に記憶に新しいのは、当初常温超電導の分野で主導的役割を果たしたことであり、大会や講演会が常に超満員であったのを鮮明に覚えております。

又、燃料電池関係、リチウムイオン電池関係でも当学会がメインとなり会員の皆様が活躍されており、成果も出ております。

この様に最近フォローの風がふいておりますが、さて次は？ が一番大事な事であると考えているしだいです。

さて、関東支部の活動状況であります。神崎前支部長の後を引継ぎ、未踏科学を語る会、境界領域セミナーの2回の講演会を担当幹事の皆様のご努力により無事に開催できました。

今後の予定であります。今年中にもう一件の関東支部主催のセミナーの開催とサイエンスツアー（見学会）を行なう予定になっておりますので、会員各位のご参加をお願いいたします。

Isao OSADA
本会関東支部長
日本化学工業株式会社
電子材料開発部部长